

先月の「秋来たる」でも書いたが、今年は異常に気温が高い。十一月に入っても半袖でいられる。これも温暖化のせいなのだろうか。「常夏の国日本」などと言うことになっては大変だ。四季があつてこそ、日本独特の文化が存在するのに。

● 半袖で街中歩く若者は霜月なんか忘れているか  
平年なら長袖シャツにセーターかジャケットを着ているのに、今年は夏のままの服装で過ごせる。衣替えなどという言葉が死語になりつつある。衣類を扱う業界はさぞかし苦労していることだろう。

● 借金で減税すると誇らしげ孫の財布に手を伸ばすとは  
首相は増収増を還元すると言うが、財務相はそんなものはとくに使つてしまひ減税に当てる原資はないという。借金で減税するのは後世の人の懐から金を盗むようなものだ。自民党政府は安倍政権以来借金する事に対し、何の罪悪感も持たなくなつてしまった。

● 鳶が舞う天空高き文化の日心弾ませ再会の場へ  
二十年前に私が起こした会社へ応援に来てくれた人が、久し振りに会いたいと言つてきた。文化の日に六本木で食事をする事になり、いそいそと出かけた時に天空に舞う鳶の姿が目についた。

● 遠慮なく優先席へ腰下ろす我は老いたり小田急電車  
七十代前半では優先席へ座るぐらいなら立っていたのだが、最近は見栄も外間人も無く空いている優先席には座ることにしている。

● 箱根山傾く太陽支えかねみる暮れる秋の一日  
六本木からの帰りは五時近くなり、車窓からは箱根山に陽が落ちるのが見えた。陽が落ち始めて箱根山の背後に沈んで行くのは実に速い。

● 食卓で爆撃を受けるガザを見る何もできないこの歯痒さよ  
これは虐殺だ、元はと言えば欧米諸国がその紛争の種を蒔いたのに。